

英語コーパス学会第10回大会

日 時 1997年10月4日(土)

会 場 大東文化大学板橋校舎(東京都板橋区高島平1-9-1) 研究管理棟6階大会議室

1.地下鉄都営三田線「西台駅」下車 徒歩10分

2.東武東上線「東武練馬駅」下車 スクールバス利用 約5分

ワークショップ 10:30-12:00 1号館4階 401号室

《はじめてのコンピュータコーパス》 梗概

講 師 塚本 聡 (日本大学)

先着 30名(予定) 参加費 会員無料・非会員1,000円

(申し込みは電子メール・FAX・郵便で事務局まで)

受付開始 12:30

開 会 13:00

1. 会長挨拶 姫路獨協大学 齊藤 俊雄
2. 開催校代表挨拶 大東文化大学 早田 輝洋
3. その他

研究発表 13:30-14:50

1. 「英字新聞・雑誌における日本語からの借用語の使用について」 梗概

大阪大学大学院生 木村まきみ

司会 高知女子大学 五百蔵高浩

2. 「中英語テキストの標識付け」 梗概

筑波大学 磐崎 弘貞

司会 大阪大学 今井 光規

〈休憩 14:50-15:05〉

帰朝報告 15:50-15:45

「COBUILD プロジェクトの軌跡：その隠された人物像」

筑波大学 磐崎 弘貞 梗概

司会 神戸大学 西村 秀夫

特別講演 15:50-17:40

司会 大東文化大学 山崎 俊次

1. "Corpus Linguistics: Past, Present, Future" 梗概

ルンド大学 Jan Svartvik

2. "Implications and Applications of the Corpus Revolution" 梗概

ヴィクトリア大学 Graeme Kennedy

閉会の辞 大東文化大学 山崎 俊次

《懇親会 17:50-19:30 50周年記念館4階 大会議室 会費 4,000円》

英語コーパス学会 (Japan Association for English Corpus Studies)

会長 齊藤俊雄

事務局 657 神戸市灘区鶴甲 1-2-1 神戸大学国際文化学部 西村秀夫研究室

TEL/FAX 078-803-0737 E-mail: (E-mail address deleted)

郵便振替口座 00940-5-250856

◆会場準備の都合がありますので、研究発表・シンポジウム、懇親会に参加ご希望の方は9月25日までに事務局宛てに、郵便・FAX・電子メールにて必ずご連絡ください。

◆大会当日、入会受付もいたしますので、お誘い合わせの上ご参加下さい（年会費：一般4,000円 学生3,000円）。

◆「当日会員」としての参加も受け付けております（1,000円）。

英語コーパス学会第10回大会レジュメ

目次

ワークショップ《はじめてのコンピュータコーパス》(講師 塚本 聡)

◆研究発表

●「英字新聞・雑誌における日本語からの借用語の使用について」(木村 まきみ)

●「中英語テキストの標識付け」(園田 勝英)

◆帰朝報告

●「COBUILD プロジェクトの軌跡：その隠された人物像」(磐崎 弘貞)

◆特別講演

●"Corpus Linguistics: Past, Present, Future" (Jan Svartvik)

●"Implications and Applications of the Corpus Revolution" (Graeme Kennedy)

ワークショップ

《はじめてのコンピュータコーパス》(講師 塚本 聡)

このワークショップでは、Windows (3.1 以上) 環境で作動するコンコーダンスプログラム KWIC Concordance for Windows を例に、コンピュータコーパスと、それを処理する検索プログラムについて、初心者を対象に初歩的な実習を行います。現在コーパスは、ネットワーク上で入手可能なものをはじめ CD-ROM 等、多数存在します。しかしその資料を処理する際に、ワープロ等の検索機能の利用にとどまっている場合があるようです。このような使用では、用例の比較などは画面をスクロールしての比較となり、はなはだ不便です。awk や grep をはじめとするテキストツールは多数存在しますが、これらは初心者には難解であり、また、コーパスに関する情報が COCOA 形式等で付加された場合には、なお一層扱いにくいものとなります。このようなコーパスを扱えるプログラムでは、Micro-OCP が著名ですが、これはコマンドファイルを使用するバッチ形式のプログラムで、GUI の環境

に慣れ親しんだコンピューター初心者の中には敷居が高いと感じる方も多いと思われる。これらの点から、出来るだけ簡便で、かつ、COCOA形式等のコーパスを扱える KWIC Concordance for Windows を用い、単語リスト、コンコーダンス等を作成しながら、便利さを確かめてもらうことを目標とします。また、希望者にはこのプログラムを収めたフロッピーディスクを配布する予定です。なお、このプログラムは <http://www.mmm.cit.nihon-u.ac.jp/~tukamoto/> または NiftyServe 英会話フォーラム・コミュニケーション館 (FENG) データライブラリー「プログラム・マクロ・画像」より入手可能です。

◆研究発表

●「英字新聞・雑誌における日本語からの借用語の使用について」(木村 まきみ)

現在、英語辞典に登録されている日本語からの借用語は約 600 語にのぼり、英字新聞や雑誌では日本語からの借用語が様々な形でしばしば使用されている。借用された語彙は発音・綴り・派生・品詞・意味等の各面で様々な変化を遂げ次第に英語の語彙として広く浸透していく。本研究では日本語からの借用語が英字新聞・雑誌でどのようにして使用されているかを観察することにより日本語からの借用語が英語の語彙として定着していく過程を解明する。まず、英語辞書の記述や用例に基づくこれまでの研究で導き出された日本語からの借用語の英語化過程を The Times や TIME MAGAZINE などの英文データを調査して検証する。固有名詞や専門用語を除けば、大半が辞書から導き出された結果と合致する。同時に、辞書からは発見されなかった新たな意味転換の例や派生語等の最近の傾向を明らかにする。また、翻訳借用・和製英語借用についての考察も行い、それらが近年増加していることや通常の英語化過程の順序に従わないこと等が確認できる。さらには英米両語の間では日本語からの借用語の使用頻度やその中で多用される語・使用される語形や意味等において差が見られることについても述べたい。

●「中英語テキストの標識付け」(園田 勝英)

約 7 万語からなる後期中英語のテキストにに対して行なった文法的標識付けを紹介し評価を行なう。文法的標識付けについては、僅かに標準化の動きも・るが、今後多くの研究が行なわなければならない。特に歴史的テキストについては実践例が少ない。発表者の行なった「バストーン家書簡集」の一部への文法的標識付けの詳細を説明し、それを用いて行なった形態および統語に関する調査を見ていく。標識付けを行なったり、標識付きのテキストを分析するための、エディタなどのソフトウェアツールについても言及する。

◆帰朝報告

● 「COBUILD プロジェクトの軌跡：その隠された人物像」(磐崎 弘貞)

97年夏に起こった COBUILD 編集部に対する大量リストラは、辞書学だけではなく TESL/TEFL の関係者をも震撼させた。こうした状況において、本発表では、改めて COBUILD プロジェクトの意義を問いただし、再建へのアピールを行う。そのために、既に公表された活字資料に加え、発表者がバーミンガム滞在時に長期的に実施したインタビュー資料を駆使していく。これによって、COBUILD プロジェクトの史的な展望をするとともに、これまで語られることの少なかった編集部の生の人物像にも迫っていく。

◆特別講演

● "Corpus Linguistics: Past, Present, Future" (Jan Svartvik)

Corpus linguistics, in the sense of computerized corpus linguistics, began in the early 1960s with advent of the Brown Corpus of written American English. At the time, the heyday of Chomsky, there was little interest in such empirical data among linguists in general, but new corpora were nevertheless being compiled during the next two decades. For several reasons, the attitude to natural language data changed in the 1980s, and corpus linguistics is now a popular methodology in many fields of linguistic study. Although the topic of my paper is "corpus linguistics," I am not advocating the use of corpus as the sole source of linguistic data: for some problems acceptability testing by means of eliciting informants' reactions can be a superior method, and the use of intuitive linguistic judgements is of course a basic data source in approaching any linguistic problem. I look forward to this opportunity of sharing with my colleagues in the Japan Association for English Corpus Studies some thoughts about English corpus linguistics: experiences from the past, views on the present, and ideas about the future.

● "Implications and Applications of the Corpus Revolution" (Graeme Kennedy)

This paper will consider some of the main consequences for various branches of the language sciences arising from the compilation and analysis of corpora. The paper will focus on the possible relevance of corpus-based research for linguistic theory, the description of languages, and especially for second language learning and teaching.